

【日本農業新聞 2016年7月5日付～7月11日付の紙面から】123回目

<コメント>

7月10日投開票の参院選は、自民、公明の「与党大勝」で終わった。6月22日の公示以降、党首討論は1度もなく、TPPや農政改革など主要な争点の一つと言われていたが、議論は噛み合うこともなく、各党とも公約と主張の言いっ放し、一方通行の議論で終わった。まさに、安倍晋三政権の巧妙な“争点外し”といえる。秋の臨時国会では与党は数におごらず、争点を明らかにし情報をきちんと公開し、正々堂々、議論を深めてほしい。

<概要>

■参院選で東北地方 激戦 根底に米問題／与党は不安払拭躍起

【7月8日付1面】

参院選で激戦が続く東北地方。TPPや農政への不満が与党苦戦の一因とされるが、与野党はその根底に米価低迷などの米問題があるとみる。与党は森山裕農相らを投入し、将来不安の払拭（ふっしょく）に躍起。民進党をはじめとする野党の統一候補は、戸別所得補償制度の復活を訴え、受け皿を担う。与野党は最終盤まで東北地方に幹部を投入する方針。米政策を巡り、農業票の奪い合いになりそうだ。

■「農の将来」選択訴え 緊迫「1人区」の最終日／TPP是非で対立 山形／2016年参院選

【7月10日付1面】

参院選最終日の9日、各候補者は最後の訴えに声をからした。勝敗を左右する「1人区」でも、東北・甲信地方などで競り合いが続き、安倍政権が進めたTPPや農政改革の是非が主要な争点に。米の主産県では米価下落もあり、10日の投開票まで予断を許さない。山形県選挙区では、国内対策の充実と攻めの農業への転換を強調する自民新人の月野薫氏と、断固反対を訴える元農水政務官で無所属の舟山康江氏が、相反するTPP公約でぶつかる。

■農家代表候補 最後まで熱く／現場の声届ける 藤木真也氏／「反TPP」貫く鎌谷一也氏／2016年参院選 きょう投開票

【7月10日付3面】

参院選の最終日を迎えた9日、比例代表で立候補した農家代表が最後の訴えに臨んだ。全国農業者農政運動組織連盟（全国農政連）推薦を受け、自民党から出馬した藤木真也氏は、「課題が山積する農業現場の声を届けたい」と強調、国政への力強い後押しを呼び掛けた。民進党公認の鳥取県畜産農協組合長、鎌谷一也氏は「農業・農村が崩壊の危機に瀕（ひん）する」とし、TPP反対へ揺るがぬ姿勢を見せた。

■WTO 世界の貿易動向 新指標を公表へ

【7月10日付3面】

ジュネーブの世界貿易機関（WTO）は8日、世界貿易の動向を示す新指標「WTO I」の公表を始めると発表した。輸出货量など貿易状況を示す政府統計の他に、新車販売台数や

航空貨物の荷動き、国際海上輸出コンテナの重量といった業界統計を組み合わせ、世界貿易の実態をいち早く把握できるとしている。WTO Iは世界貿易量の最近の動きを100とし、伸び率を公表する。また原則として四半期ごとに発表する。

■舟山氏返り咲く／TPP問題 国会で追及 山形

【7月11日付3面】

山形選挙区では民進、社民の推薦、共産の支援を受けた野党統一候補で無所属の舟山康江氏(50)が、3年ぶりの国政復帰を果たした。午後8時過ぎに当選確実が伝えられると、山形市の事務所に集まった支援者ら約100人を前に万歳三唱した。舟山氏は、TPP反対を一貫して訴えてきた選挙戦を振り返り、取り組むべき最優先課題を「まずはTPPだ」と強調。「秋の国会が正念場になる。本当の戦いはこれからだ」と意気込みを述べた。

■農政のかじ取り尽力 鹿児島・野村氏

【7月11日付総合・社会面】

鹿児島選挙区は、自民党現職で公明党が推薦する野村哲郎氏が3回目の当選を決めた。農業振興やTPP対策の着実な実施などを訴え、野党統一候補らとの争いを制した。当選確実の一報が伝わると、鹿児島市の選挙事務所は拍手に沸き、歓喜の渦に包まれた。今後の農政については「党でまだ詰めていない課題が多くある」と述べ、9月中・下旬までにTPP政策大綱の具体策や畜産物、畑作物の振興策などをまとめていく考えを示した。

■「反TPP」声届ける 茨城・郡司氏

【7月11日付総合・社会面】

農林議員としては、民進党現職で茨城選挙区の郡司彰氏が4期目の当選を果たした。TPPについては「農業だけの問題ではない」と警鐘を鳴らし、反対姿勢を前面に打ち出して選挙戦を戦った。旧民主党時の戸別所得補償制度の復活も訴えてきた。郡司氏は「TPPも、どの程度情報が開示されるのか。対策が示されているが、財源の補償が明確でない。TPPは農業だけの問題ではなく、全体の疑問点をただしていきたい」と語った。

以上